

館内無料ガイド

事前にご予約をいただければ、「いのちをつなぐ未来館」の展示物について、当館ガイドが解説致します。ガイド中は、展示物に関するご質問もしていただけます。所要時間は、20分となっております。展示物をより深く理解したい方は、ぜひこの機会をご活用ください。（※3名様以上でのお申し込みに限らせていただいております。）また、当館の展示自体は、開館時間内であれば無料にてご自由にご覧いただけますので、特に事前のお申込み等は必要ございません。



① 東日本大震災と釜石

釜石市内における東日本大震災の被害状況から、展示は始まります。釜石は湾が入り組む複雑な形状をしており、各地域ごとに被害が異なりました。また、その地形的な特徴から、歴史的に何度も津波に襲われており、その中で地域の人々の防災意識がどのように変化していったかも津波の歴史とともに振り返ります。さらに「震災後7日間の動き」として、震災が発生してから、自衛隊や消防の方々を中心とした救助活動、ボランティアの活躍、全国各地からの救援物資の到着の様子などを当時の写真とともにご紹介します。

② 鵜住居地区防災センターの出来事

いのちをつなぐ未来館の隣には「祈りのパーク」という慰霊者追悼施設がありますが、そこには当時「鵜住居地区防災センター」という施設がありました。「避難拠点（中長期の避難生活をおくる場所）」ではありつつ、津波の「緊急避難場所」には指定されていなかった、当時の防災センター。その名称や使用のされ方から、地域では多くの誤解が生じ、この場所に避難をした多くの方々が津波による犠牲となってしまいました。このような出来事を避けるために、何をすべきだったのか。具体的な地域の方の避難の動きや証言とともに当時を振り返ります。



③ 釜石の子どもたち

市内全域で甚大な被害が生じた一方で、市内の小中学生の生還率は、非常に高いものでした。そのため、当時の釜石の防災教育は、全国的にも高い評価をいただいています。この最後の展示室では、鵜住居地区にあった釜石東中学校・鵜住居小学校の事例を中心に、地区ごとの当日の児童生徒の避難の動き、また普段行われていた訓練の内容をご紹介します。

※語り部（避難路追体験）プログラムでは、実際に釜石東中・鵜住居小の児童生徒が避難した道を歩きつつ、より詳しい解説を実施します。詳しくは「語り部」のページをご参照ください。）

詳しい申込方法に関しては、ホームページに掲載の「申込書」をご参照ください。

お問い合わせ先：いのちをつなぐ未来館 TEL：0193-27-5666 FAX：0193-27-5667
E-mail：tomosu@dmo-kamaishi.com URL：http://unosumai-tomосу.jp/